

「今日は、宿題の調べ物をしに来たのよ。」



「そんなのは、この本を見てからでもできるよ。それより見てごらん。たくさんの虫がのっているよ。ほら、この蝶、とってもきれいだと思わない。」

ケンとマヤは、小学5年生の幼なじみ。ケンは何にでも興味をもってしまう男の子。マヤは、ケンの暴走をおさえる慎重派で思慮深い女の子。

そんなある日、2人は学校で出された宿題の調べ物をしに図書館へ向かいました。図書館へ着くと、案の定ケンはまっすぐに自分の興味のある昆虫図鑑のある場所へ行ってしまう。そしてすぐにケンは、マヤの目の前に昆虫図鑑の本を広げて見せます。たしかに、カブトムシなどケンの好きそうな昆虫もいれば、きれいな蝶ののったページもあり、見とれてしまいます。思わず蝶のページのところでマヤは声をあげてしまいました。

「うわあ、大きくてきれいな蝶ね。こんな蝶にのって空を飛ぶことができればどんな気分なんだろうね。」

すると、その声に反応するかのように、本の中の蝶の羽が動いたのです。

「ねえ、ケン見た。」

「見たよ。蝶の羽が動いたよね・・・。」

その時です。2人の目の前がグニャッとゆがんだかと思うと

「うわあ〜。」

2人の体は本の中へ引き込まれていきました。

「うわあ〜。」

